

提燈は室町時代頃から利用され、寺僧によって作られたと伝えられています。はじめは、木でワク組みをして和紙を貼り、下の方に把手をつけて持ち運びました。江戸時代になるとアンドン型のチョウチンから籠型のチョウチンに変化してきました。

チョウチン作りは、竹ヒゴ作りから始まるといわれています。竹林の多い地方は地元の竹を使いましたが、県内の場合は殆んど外注していたようです。チョウチン張りの仕事は、チョウチンの木枠組みから始まり、上下の部分を曲輪で押えます。その後、木枠に竹ヒゴを巻き、和紙を貼りつけて乾いてから紋様を書き、それから油を塗って仕上げます。

チョウチンは、籠、チヨウチン、棒の先端に下げるブラチヨウチン、高張りチヨウチンなどのほかに、小田原のカゴかきを使った「小田原チヨウチン」などや、仏前を美しく飾る盆チヨウチンのような美しい手作りのものもあります。

展示資料

チョウチン作り具	7点
チョウチンの紋様	20点
ブラチヨウチン	1点
弓張チヨウチン	1点
小田原チヨウチン	1点



# 新収蔵品展

— 解説・資料目録 —

1978.2.25(土) ~ 4.16(日)

山形県立博物館

## 開催にあたって

「新収蔵品展」は博物館の収集・整理活動のまとめとして、本年度あたらしく収蔵した資料や整理した資料のなかから、県民にとって興味深い貴重な資料を選んで展示します。この催し物展を開くにあたって、いろいろな資料をご寄贈して下さいました方々やご協力していただいた方へ厚くお礼申し上げます。

地学

- 北海道有珠山と昭和新山の噴出物  
展示資料は山形大学の長嶋与志男氏より寄贈していただいたもので、火山を調べるのに貴重な資料です。
- 1. 有珠山の降下軽石 洞爺湖温泉街  
(昭和52年8月9日)
- 2. 有珠山の細粒火山灰 壮瞥町市街  
(昭和52年8月13日～14日)
- 3. 昭和新山の溶岩 昭和新山
- 新生代新第三紀の貝類化石(山形県産)  
山形県専門委員の神保 應先生より寄贈していただいた、貴重な貝類化石です。
- 1. 二枚貝 立川町瀬場橋  
*Dosinia (Phacosoma) japonica (Reeve)*
- 2. まき貝 朝日村田麦俣  
*Chicoreus asanoi Masuda*
- 3. 二枚貝 朝日村田麦俣  
*Solem sp.*
- 4. 二枚貝 "  
*Ostrea rosacea Deshays*
- 5. 二枚貝 "  
*Anadara daitokudoensis tamugimatana Zinbo and Tamiya*
- 6. 二枚貝 "  
*Lutularia sieboldti Deshayes*
- 7. まき貝(南方種) 月山登山道七合目  
*Conus tokunagai Otuka*
- 8. ワンソク類 朝日村大綱  
*Terebratalia tenuis (Hayasaka)*
- 9. 二枚貝 "  
*Mizuhopecten kimurai (Yokoyama)*
- 10. 二枚貝 "  
*Pitaritoid (Makiyama)*

植物

杉本金三氏寄贈 キノコ図譜

昭和48年12月、50年11月、52年11月、鶴岡市日吉町の杉本金三氏より、本館に寄贈されました。総点数1260点、1点ごとに原色図・胞子紋・検鏡図・解剖図・解説が付けられている貴重な研究資料です。

この資料のなかには、まだ和名も、学名もない全くの新発見の種類が多く含まれており、県内産キノコの種類や分布をとき明かす、またとない資料として活用できます。

また、杉本氏のキノコ研究の方法は、未分野の自然史研究の方法として、多くの専門家から高く評価されています。

キノコ研究のプロフィール

杉本氏のキノコ研究は、昭和21年、鶴岡市立朝陽第四小学校に赴任したときからはじまりました。当時は、終戦直後で極度の食糧難の時代であったから、学区民の多くは、山野に食べものを求めて、野草・山菜・キノコなどを採取し、食糧のたしにしていました。

当然、学区内では、キノコの中毒が相継いで起り、大変な騒ぎになりました。杉本氏は、この恐しいキノコの中毒から、学区民を救うことを思いました。

当時、山形県立農林専門学校(現山形大学農学部)教授であった佐藤正己氏に助言を仰ぎながら、学区内の山野をかけめぐり、手当たり次第に、毒キノコを中心に写生図・胞子紋・検鏡図を作り、解説を加えていきました。

そして、この資料をもって、学区内を訪問し、キノコの中毒の恐しさ、鑑別法・食事法を、たん念に説きまわりました。その努力が実って、学区内では、キノコの中毒が皆無になったそうです。

以来、30数年、庄内一円に生えるキノコを採集し、各市町村をまわって、キノコの中毒防止に尽力してきた方です。

その研究資料の集積が、本館に寄贈されたキノコ図譜コレクションです。

展示資料

ササクレヒトヨタケ 他26点

動物

- 1. ほ乳動物の頭骨のいろいろ  
ウマとかタヌキだとかの大きなちがいは外部から見ただけでよくわかりますが、種の分類を決定するときはもちろん、近い種類同志のちがいを区別するときも、頭骨の構造を比べることは、欠くことのできない重要な要素になってきます。  
このように、頭骨の形や歯のちがいは、それぞれの種類に応じて大きな特徴をもっています。  
本館で県産ほ乳類各種の頭骨を収集し整理された資料の一部です。  
ニホンツキノワグマ頭骨  
ホンドザル " 他 7点
- 2. 昭和52年度収集昆虫資料  
昆虫類の収集は本年度も例年通りおこなわれましたがそのなかから県外産のものや特に貴重な種類をえらんで展示します。  
サソリモドキ  
サツマゴキブリ 他 5点
- 3. 未展示鳥類標本資料  
開館以来多くの方々から資料の寄贈を受けていますが、今まで展示したことのない鳥類標本数点を展示します。  
ノガン  
白化ヤマドリ など

考古

第三次大立洞穴出土品

今年度も昨年に引き続き、本館の調査研究活動として、第三次大立洞穴遺跡の発掘調査を7月25日～8月6日までの2週間実施しました。

今年の調査のねらいは、昨年同様日本最古の土器の追究にあり、特にテラス部地表下2mの深さより隆起線文土器・爪形文土器・絡糸体瓦痕土器・無文土器などの一群の縄文時代草創期の土器群が発見されました。

又、上記古式土器を出土する上の土層からは、草創期以降の各縄文式土器・彌生式土器・土師器・須恵器などと同時期の石器や石片なども発見されました。特に地表に近いところからは寛永通宝などの古銭も発見されています。

第三次調査の中間報告を兼ねて、これらの出土資料を展示します。

展示目録

- 縄文式土器片 15点
- 彌生式土器片 3点
- 土師器 2点
- 須恵器 2点
- 石器 10点
- 古銭 8点

歴史

初代県令三島通庸関係資料

初代山形県令三島通庸は元薩摩藩士で、若い頃尊王攘夷運動に参加して、寺田屋事件で死に直面したこともありましたが、

明治7年酒田県(のち鶴岡県と改称)令、同9年、鶴岡・山形・置賜3県が合併して山形県が成立すると初代県令に就任し、以後、同15年福島県令として山形を離れるまで6年間、山形県政の基礎づくりの上に大きな業績を上げました。県庁や済生館、師範学校をつくり、さらに、道路交通網の整備では、栗子・関山・磐根各新道をはじめとする新道開き200Km余、常磐橋等の架橋350余におよび、「土木県令」と称され、住民を強制労働にかりたてるなどから、「鬼県令」とよばれて、県民の不満の声もありましたが、後世の山形県発展にはたした役割は数しれないものがあります。

三島県令はまた、新道開きくわんの完成を記念した歌をはじめ、県内各地をうたいあげた多数の和歌を残した文化人でもありました。

三島通庸(1835～88)は、その後、福島・栃木・両県令、さらに警視総監を歴任し、その間、福島事件や加波山事件に関係し、また保安条例を公布するなど、自由民権運動とするとく対決しました。

展示資料

- 三島通庸石膏胸像
- " 直筆遺詠掛軸 2幅
- " 警視総監時の佩刀
- 山形師範学校平面図
- 赤心の和歌
- 看板 他 7点